

11月1日に、平成29年度第2回「帯広市自立支援協議会 就労・社会活動部会」を開催いたしました。この研修会は、就労への支援の向上と、障がいをお持ちの方の就労を含めた生活の質の向上を目的に昨年度から行っております。

今回は『就労に向けた支援について』をテーマに、当センターから「就労支援のプロセス」についての情報提供、有限会社アグリファクトリー 専務 中村 千代子 氏、株式会社 mai ハーモニー 取締役 末永 輝人 氏、株式会社つながり 代表取締役 北村 直也 氏、社会福祉法人真宗協会 多機能型障害者就労支援事業所 帯広はちす園 支援係長・サービス管理者 村上 由佳 氏から、各事業所の就労支援の取り組みについてお話をいただきました。



当センターからは、地域全体で就労支援を進めていく中での、関係機関ごとの役割や視点についてを情報提供致しました。

ご本人はもちろん、企業への関わり方なども含めて、全国的な就労支援の現状を織り交ぜながら、就労支援の基本的なプロセス『就労相談→アセスメント・準備訓練→求職活動・マッチング→職場定着支援→フォローアップ』についてを再度、参加者の方々と確認をすることができました。

後半の実践報告では、就労継続支援B型事業所、就労継続支援A型事業所、多機能型事業所（就労移行支援事業所・就労継続支援B型事業所）の方々から、各事業所でのサービス内容・就労支援に関する取組などをお話いただきました。

有限会社アグリファクトリーの中村千代子氏より、一般就労に向けて1年目、2年目と経験を重ねるにつれて責任感や就労への意識を高めていけるプログラムから、実習や施設外就労などに段階を踏むことで「社会に出ること」へのイメージを少しずつ膨らませるような支援があるとの話がありました。

株式会社 mai ハーモニーの末永輝人氏からは、一般就労を目指したい目的や事業所を利用する意味を日々の中で本人に問いながら、作業などを通して具体的な目標のすり合わせを目指しているとの話があり、今後も就労支援に携わる中でより「なぜ」「どうしたいか」を具体的にしていくことが必要であるとの話がありました。

株式会社つながりの北村直也氏からは、事業所では「就職」をゴールとするのではなく、その後の人生をどの様に送っていきたいのかを、利用スタート時に目標として持ってもらふことや、プログラムに含まれる学習時間の枠組みでは、自己分析に力を入れるなど就職に向けて自分で自分を知っていくということを大切にしているとの話がありました。

多機能型障害者就労支援事業所帯広はちす園の村上由佳氏からは、実際に障がい者雇用につながったケースから、ご本人だけではなくてご家族・企業・関係機関との関わりを密に行い、「就職して終わり」ではない就労支援を継続して行うことと、地域とのつながりが強いことが逆に弱みになるということや、利用者の高齢化など、地域ならではの課題に関するお話もいただきました。

また、パネルディスカッション方式で各事業所にお話を伺いました。利用者が「卒業」したあとの利用

者確保に関しては、相談支援事業所とのやり取りの中で紹介される場合や、本人・家族が直接利用を希望されて事業所に来られるパターンなど、事業所により様々でした。

他にも、プログラムはどのくらいの期間で行い就職につなげていくのかということや、福祉サイドの気持ちと経営サイドの気持ちが十分に合わない場合もでてくるという課題についてもお話をいただきました。

参加者の方々からは、送り出す側として「在学中に身に付けられなかった力をつけてもらえる」「本人が選べる選択肢がたくさんあるのはありがたい」、関係機関からは、「本人の話だけを伺うのではなく、本人との『ゴールのすりあわせ』が大切になるため、このような場で事業所の思いや気持ちを聞くことができたのはよかった」というご意見をいただくことができました。

事業所で提供しているサービスやプログラムは違えど、共通の思いを持って就労支援に携わっていることを全体で共有できたのではないかと思います。

今回は、十勝管内の福祉事業所・行政・教育機関等、約 80 名の方にご参加を頂きました。今回は特に



相談支援事業所からの参加が多く、就労支援事業所だけでなく、様々な立場の方に地域の中での就労支援へ関心をお寄せ頂いているとの印象がありました。地域で一般就労への取り組みの姿勢が高まっている中で、皆で同じ方向を向かって進んでいけるよう、当センターは今後とも就労支援の情報を逐一お届けしたいと考えております。

今年度の第 3 回目は 2 月～3 月を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。